

中央大学特定課題研究費 ー研究報告書ー

所属	経済学部	身分	教授
氏名	林 光洋		
NAME	Mitsuhiro Hayashi		

1. 研究課題

（和文）アジア途上国における都市・農村間の格差：家計データを用いた要因分解分析

（英文）Inequality between Urban and Rural Areas in Asia's Developing Economies: A Decomposition Analysis Using Household Data

2. 研究期間

2年間（2017・2018年度）

3. 研究の概要（背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600字程度、英文 50word程度）

（和文）World Bank が指摘するように、都市・農村間の社会・経済的格差は著しく、公正の観点からすれば、その是正は途上国にとって喫緊かつ重要な課題である。ADB は、アジア途上国でも地域間、都市・農村間の所得格差が拡大傾向にあり、速やかに解決すべき問題であると強調している。しかし、都市・農村の格差の問題は、そのように重要でありながら、データの規模や種類、要因分解手法等の点で、これまで必ずしも十分な形で研究されてきたわけではない。

そこで本研究は、アジア途上国、特にインドを対象とし、全国規模で時系列の家計調査データを用い、格差とその変化を、都市・農村内および都市・農村間の格差によって要因分解し、それぞれの影響の程度について明らかにすることを目的とした。Elbers の要因分解の新手法を用いて、都市・農村間格差の適正な評価を行ったり、都市・農村の部門内および部門間の格差とその変化を、教育をはじめ、年齢、ジェンダー、階層、職業といった世帯の特性で要因分解し、それら格差に対して影響の大きい要因を明らかにしたりすることも目的とした。

インドの家計調査データを用い、都市と農村に焦点を当てながら消費支出の地域格差の測定と要因分解を行なった。「インドにおける家計消費支出の地域格差ーその実態と要因ー」（2017年）、Spatial Dimensions of Expenditure Inequality in India: With Attention to the Roles of Education and Social Classes（2018年）、「インドにおける都市・農村内および都市・農村間の消費支出格差ー世帯特性による要因分解ー」（2019年）、「インドにおける都市・農村間消費支出格差と社会的要因の役割ーBlinder-Oaxaca手法による分析ー」（2019年予定）といった論文で成果を公表した（予定である）。

（英文）This research project is intended to examine inequality in household expenditure in India from spatial perspectives (particularly, inequality within and between urban and rural areas) and analyze the factors causing such spatial disparities, using household data. The project has published (will publish) the following papers: 1) Expenditure Inequality in India: Its Situation and Factors; 2) Spatial Dimensions of Expenditure Inequality in India: With Attention to the Roles of Education and Social Classes; 3) Expenditure Inequality within and between Urban and Rural Areas in India: Decomposition by Household Features; and 4) Expenditure Inequality between Urban and Rural Areas and the Roles of Social Factors in India: Blinder-Oaxaca Decomposition Analysis.